

**\* 一戸直蔵の変光星の観測野帖の譲渡 (2010年1月7日受入れ)**

一戸直蔵は伝説的人物である。彼は日本人最初の変光星観測者でもある。一戸直蔵の資料は、それを保管しておられた佐久間精一氏からアーカイブ室に譲渡され、国立天文台図書室に「一戸直蔵文庫」として収蔵されている。

今回は、富田智子(富田弘一郎夫人)氏が川崎青少年科学館に寄贈されていた一戸直蔵の変光星観測の「観測野帖」がアーカイブ室に譲渡された。一戸直蔵の資料は、神田、五味一明、富田弘一郎と受け継がれてきたものを佐久間精一氏が保管されていた。

これらの一戸直蔵の資料の経緯については2009年12月11日、12日に開催された「国立天文台の歴史的アーカイブスに関するシンポジウム」で佐久間精一氏が発表されている。近くこのシンポジウムの集録が出版されるのでお読みいただきたい。今回、川崎青少年科学館から譲渡された一戸直蔵の変光星観測野帖は、アーカイブ室新聞31号に掲載された一戸直蔵博士資料目録ファイルNo.1(Yerkes天文台、東京天文台関連)の19)変光星観測野帖(一部分のコピー。Originalは川崎市青少年科学館国司氏保管)と書かれた国司氏が保管されていたものであろう。富田智子氏から川崎青少年科学館への寄贈は2007年12月8日となっている。写真1が今回譲渡された観測野帖のOriginalである。



写真1 1907年10月28日～1911年6月4日の変光星観測野帖

一戸直蔵は、1903年東京大学理科大学を卒業し東京天文台助手になっている。そして1905年9月、私費で渡米し、シカゴ大学ヤーキス天文台に留学し、1907年10月帰国している。一戸直蔵は当時の東京天文台長寺尾寿に1911年に「くび」にされたと言われているから東京天文台職員であったはずだが、「東京天文台 75 周年誌」、「東京天文台 90 周年誌」、「東京天文台の百年」の元職員の中に名前はない。麻布にあった東京天文台の三鷹村への移転に異を唱え、三鷹はいずれ都市化し観測条件は悪くなると、赤城山への移転を主張し、台湾の新高山天文台を画策し、台長と対立し東京天文台を追われたと言われている。しかし、元職員の中にも入れないとは！

今回、譲渡された変光星の観測野帖は1907年（明治40年）10月28日から1911年（明治44年）6月4日のものである。一戸直蔵がアメリカから帰国し、東京天文台を追われるまでの間の観測野帖である。彼の観測野帖のNo.2（1908年7月29日～1909年1月23日）の裏表紙の内側に写真2の記述があった。

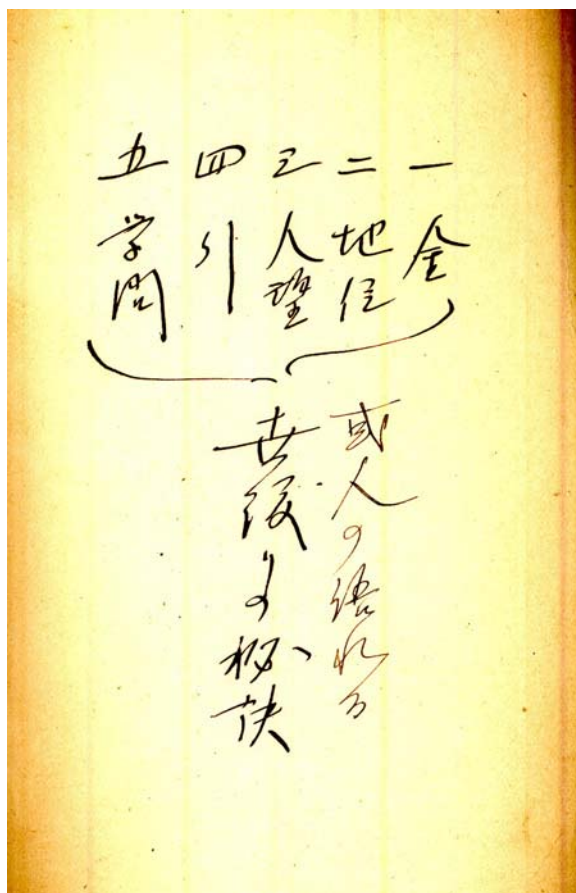


写真2 観測野帖の裏表紙内側の書き込み

一に金、二に地位、三に人望、四に引、五に学問、アメリカへの私費留学、台長との対立、若手学者のリーダーであった一戸直蔵・・・、この「世渡りの秘訣」はどんな思いで書いたであろうかと思いをめぐらせている。しばらくはこの早すぎた出生の天才の野帖をめくってみたい。